

南部町地震ハザードマップ

保存版
平成22年

地震ハザードマップとは、地震災害に関する情報と避難方法などを住民の皆様にご提供することにより、日頃からの防災意識を高めるとともに、いざという時に避難行動が安全かつスムーズに行われ、被害を最小限にすることを目的とした地図です。

南部町への影響が大きいと想定される地震の震度をもとに、それぞれの場所の最大の震度から「揺れやすさマップ」、「地域の危険度マップ」を作成し、これらを「地震ハザードマップ」としています。

想定される地震について

山梨県が行った「山梨県地震被害想定調査（平成8年3月）」および「山梨県東海地震被害想定調査（平成17年）」における想定地震は、東海地震、南関東直下プレート境界地震（現在は首都直下地震）、金無川断層地震、藤の木梨川断層地震、管根丘陵断層地震、糸魚川ー静岡構造線地震の6つです。この内、南部町への影響が大きい地震として「東海地震」を想定しています。



★東海地震

予想される東海地震は、駿河トラフから北西に落ち込むフィリピン海プレートと、大陸のユーラシアプレートの境界で発生するプレート境界型地震です。プレート境界にあたる駿河湾内の最深处は、トラフ（海盆）となっているので、海溝型地震とも呼ばれています。

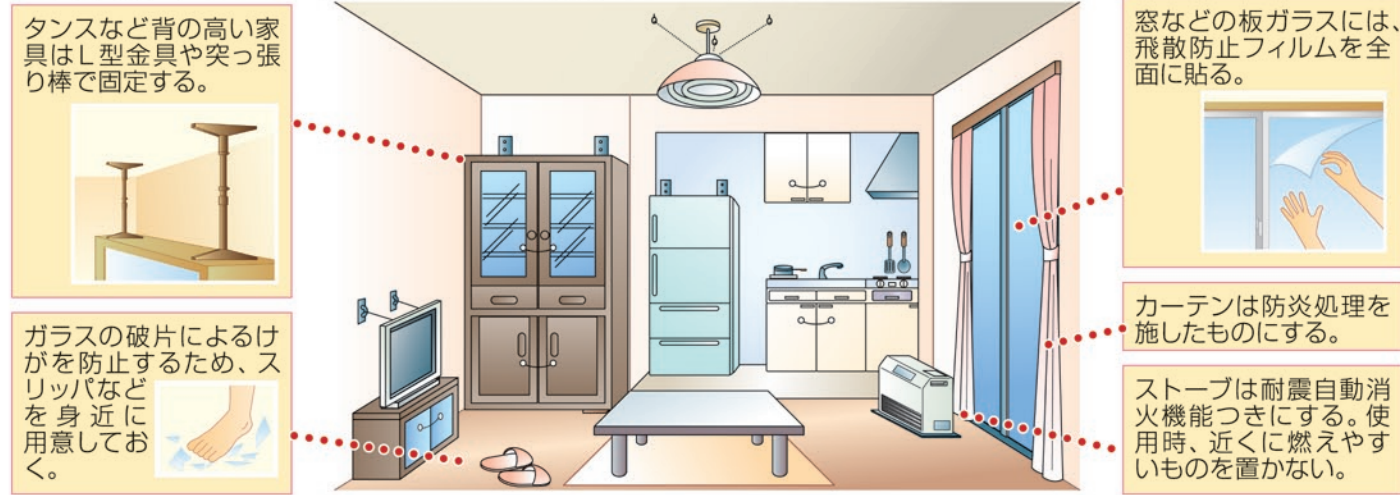
企画：南部町役場 交通防災課
発行：平成22年3月
〒409-2192 山梨県南巨摩郡南部町富士28505番地2
TEL：0556-66-2111
FAX：0556-66-2190
ホームページ：http://www.town.nanbu.yamanashi.jp/

南部町地震ハザードマップ (揺れやすさマップ)

屋内の備え・点検箇所

安全のために、以下のようなことも大切です。

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置くようにする。
- 玄関や廊下には家具や荷物を置かない（避難時の妨げとなる）。
- 高齢者や子どもがいる部屋や寝室には、倒れやすい家具は置かない。



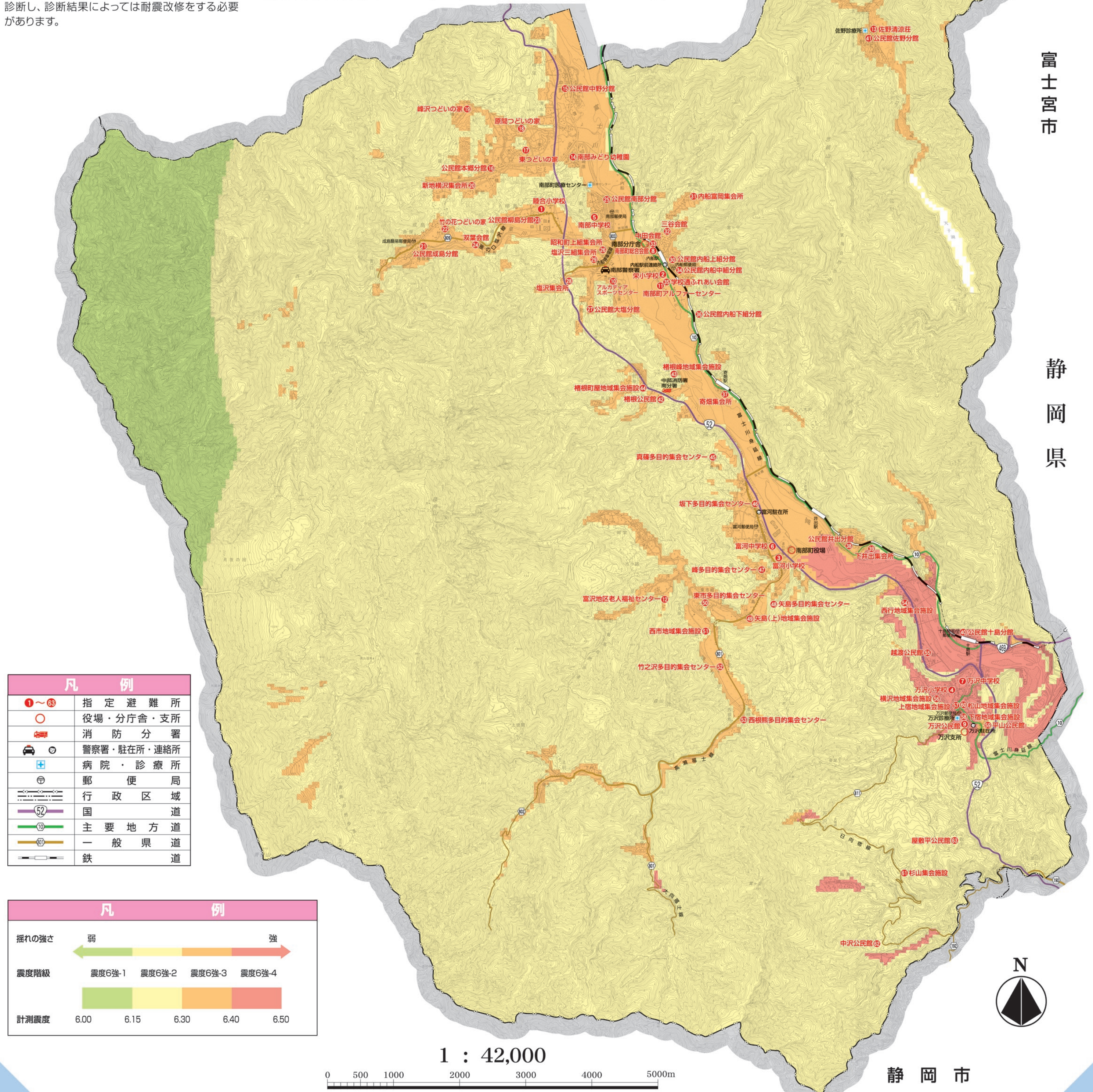
大地震に備えた『わが家』の耐震診断

古い耐震基準で建てられている昭和56年以前の建物は、大地震によって大きな被害を受けるおそれがあります。大地震時に自分や家族を守るためには、地震に対して自分の家が安全かどうかを診断し、診断結果によっては耐震改修をする必要があります。

■「誰でもできるわが家の耐震診断」

自分の家を簡単に診断するカルテとして、国土交通省住宅局監修のパンフレットが下記のホームページからダウンロードすることができます。

【財団法人日本建築防災協会ホームページ】 <http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/wagaya.html>



日頃からの備え

日頃から地震災害に備え、家族での役割分担や非常用持ち出し品の準備を行い、万一避難することになった場合には、冷静に状況判断をして安全な避難を心がけてください。

備蓄品（非常用持ち出し品）

飲料 水 レトルト食品 インスタント食品 缶詰 乾パン	水 レトルト食品 インスタント食品 缶詰 乾パン
現金（硬貨含む） 通帳 印鑑 保険証 カード	現金（硬貨含む） 通帳 印鑑 保険証 カード
予備の電池 懐中電灯 ラジオ 携帯ラジオ ナイフ・缶切り 簡易食器・スプーン ライター・マッチ ローソク 布ガムテープ 手拭 布（タオル） 手拭 布（タオル）	予備の電池 懐中電灯 ラジオ 携帯ラジオ ナイフ・缶切り 簡易食器・スプーン ライター・マッチ ローソク 布ガムテープ 手拭 布（タオル） 手拭 布（タオル）
はさみ ペンセット 救急ばんそうこう 包帯 絆創膏 消毒液 ウェットティッシュ ティッシュ マスク レインコート ヘルメット	はさみ ペンセット 救急ばんそうこう 包帯 絆創膏 消毒液 ウェットティッシュ ティッシュ マスク レインコート ヘルメット
救急用品 救急ばんそうこう 包帯 絆創膏 消毒液 ウェットティッシュ ティッシュ マスク レインコート ヘルメット	救急用品 救急ばんそうこう 包帯 絆創膏 消毒液 ウェットティッシュ ティッシュ マスク レインコート ヘルメット
衛生用品 ウェットティッシュ ティッシュ マスク レインコート ヘルメット	衛生用品 ウェットティッシュ ティッシュ マスク レインコート ヘルメット
その他 防災ずきん・ヘルメット 新聞紙	その他 防災ずきん・ヘルメット 新聞紙

自主防災組織の活動

自主防災組織とは自治会や町内会などの単位で結成されるもので、住民の皆様が自主的に連携して相互協力による組織的な防災活動を行う団体のことをいいます。災害による被害を最小限におさえるためには、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考え方が重要となります。

【災害時】

- 人命を守り被害の拡大を防ぐために、地域の皆様が協力して、火災の初期消火や負傷者の救護などを行います。
- 初期消火
消防機関と協力し、初期消火活動を行います。
- 避難誘導
避難経路の安全確認し、住民を避難所へ誘導します。
- 救出・救助
負傷者などの救出・救助や、応急手当を行います。
- 情報の収集と伝達
防災関係機関と連絡を取り、情報を住民に伝達します。
- 避難所の管理と運営
避難所での食糧物資の調達と配分、給水活動を行います。

- 地域内の安全点検
地域内の危険箇所や問題点を確認し改善します。
- 防災知識の普及と啓発
地域住民に防災知識を広め、関心を持ってもらいます。
- 防災訓練
災害に備え、消防団などの指導のもと訓練を行います。

地震発生時の行動

●まず身の安全を守りましょう



頭を保護し丈夫な机の下などに身を隠します。家具の転倒や落下物には十分に注意します。

●戸を開けて出口の確保を



揺れでドアが開かなくなることもあります。玄関、部屋のドア、窓などを開けて避難口を確保します。

●エレベーターの中にいる場合は



ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階ですぐに降ります。停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求めます。

●自動車を運転中の場合は



大きな揺れを感じたら、ハザードランプを点灯させて、まわりの車にも注意を促します。急ブレーキはかけず、ゆるやかに減速して道路の左側に停止します。

●路上や街中にいる場合には



ブロック塀や自動販売機の転倒に注意し、看板や割れたガラスの落下にも注意します。カバンなどで頭を守り、近くの公園や広い場所に避難します。

●すばやく火の始末を



動けるようであれば、すばやくガス器具やストーブなどの火を消し、元栓を締めめます。万一出火しても天井に燃え移る前にあわてずに消火します。

●あわてて屋外に飛び出さない



あわてて屋外に飛び出すと、ガラスや看板などが落ちてくる場合があります。冷静に状況を判断します。

●人が大勢いる店舗や施設の場合は



あわてて出口に向かって走り出さないで、係員の指示に従って落ちついて行動します。

●電車やバスに乗車中の場合は



つり革や手すりにつかりつかまります。バス・電車の乗務員や駅の係員の指示に従って行動します。

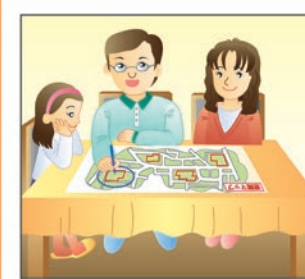
●近くにケガ人がある場合は



周囲の人と声を掛け合い、協力して救出・救護活動を行います。また、意識のない傷病者に対してはAED（自動体外式除細動器）が有効です。

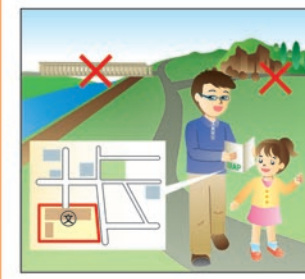
避難に対する注意点

●日頃から家族会議を開きましょう



日頃から家族会議を開き、震災時の連絡方法や、家族の役割分担、避難時にはぐれても落ち合える集合場所や避難場所を確認しておきましょう。

●避難場所・避難経路の確認を



自宅や学校・勤務先から避難場所への避難経路も確認しておきましょう。避難の呼びかけがある際は、ご近所の人たちと声をかけ合いすみやかに避難してください。

●知人に安否情報を伝えましょう



公衆電話やFAX・玄関の貼り紙などで、安否や避難先を伝えましょう。NTTの災害用伝言ダイヤルや携帯電話の災害用伝言板サービスも利用できます。

●帰宅困難に備えましょう



大震災が起きると交通手段が断たれて帰宅困難になります。平常時に徒歩やバス等で帰宅ルートの街並を記憶し、職場にスニーカーや地図・携帯食糧等を備えましょう。

●避難所では共同生活のルールを守る



避難所では、役員の指示に従ってください。避難所では食料、寝具等が用意されます。避難所から出る時には、役員に行き先や用件等を必ず伝えるようにしてください。

●家族の役割分担を決めましょう



避難する時に持ち出す荷物の分担や、火の始末をする係り、電源（ブレーカー）やガスの元栓を締める係りなどを決めましょう。

●電気やガスの元栓を締めましょう



避難の際には電源のブレーカーを切り、ガスの元栓を締めましょう。電気やガスが復旧した際に、出火する危険性があります。また、電話の受話器も戻しておきましょう。

●初期消火に協力を



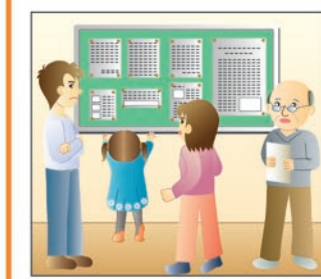
天井に燃え移る前の火が小さい初期段階であれば、周囲の人に大声で知らせて協力し、消火器や風呂の残り湯なども利用して消火できます。

●災害時要援護者への支援を



高齢者や体に不自由のある方は、災害時に避難行動や生活などで困難な状況に置かれることが多いので、周囲の方々は積極的に支援・協力してください。

●正確な情報を



避難所では災害に関する情報を随時お知らせしますので、風評等に惑わされないようにしてください。